

P1

硝子五藝



桜

Kasho Glass Pen

Glass Studio 嘉硝

P2



硝子ペン

ガラスペンは、つけペンの1種でガラス製のペンです。  
明治35年(1902年)に日本の風鈴職人だった、佐々木定次郎によって考案されました。  
当時はペン先のみがガラス製でしたが、平成元年(1989年)にペン軸からペン先まで、すべてガラス製の用と美を兼ね備えた工芸品としてのガラスペンができました。  
ガラスペンは毛細管現象を利用した実用的な筆記具で、ペン先の側面に溝があり、インクに浸けると溝にインクが吸い上がります。金属製のペンとは異なり、全方向で文字や線を描くことができます。ペン先がガラス製なので水洗いで簡単にインクを洗い落とせます。様々なメーカーから、たくさんのカラーインクが発売されていて、ガラスペン1本でお好みのカラーインクでの文字や線画を楽しむことができます。